

安全データシート

Safety Data Sheet

1. 製品名及び会社情報

| | |
|--------------|-------------------|
| 製品名 | : 白馬 テイクオフ |
| 会社名 | : 株式会社 万立 |
| 住所 | : 大阪府柏原市片山町 13-59 |
| 担当部門 | : 技術 |
| 電話番号 | : 072-977-0898 |
| FAX番号 | : 072-977-0899 |
| 推奨用途及び使用上の制限 | : 樹脂ワックス用剥離剤 |

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | |
|-----------------|----------|
| 物理化学的危険性 | : |
| 健康有害性 | : |
| 急性毒性（経口） | : 区分5 |
| 急性毒性（経皮） | : 区分3 |
| 急性毒性（吸入：ガス） | : 分類できない |
| 急性毒性（吸入：蒸気） | : 分類できない |
| 急性毒性（吸入：粉塵、ミスト） | : 分類できない |
| 皮膚腐食性/刺激性 | : 区分1A |
| 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 | : 区分1 |
| 呼吸器感作性 | : 区分1 |
| 皮膚感作性 | : 区分1 |
| 生殖細胞変異原性 | : 区分外 |
| 発ガン性 | : 分類できない |
| 生殖毒性 | : 区分2 |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | : 区分1 |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | : 区分1 |
| 吸引性呼吸器有害性 | : 分類できない |
| 環境に対する有害性 | : |
| 水生環境有害性・急性 | : 区分3 |
| 水生環境有害性・慢性 | : 分類できない |

上記で記載のない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



| | |
|---------|---|
| 注意喚起語 | : 危険 |
| 危険有害性情報 | : 飲み込むと有害のおそれ 皮膚に接触すると有毒 重篤な皮膚薬傷・眼の損傷 吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い |

臓器（神経系、肝臓）の障害

長期または反復暴露による臓器（神経系、精巣、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器）の障害

水生生物に毒性

注意書き

【予防策】

使用前に取扱い説明書を入手し、全ての安全注意情報を読み理解するまで取扱わないこと。

使用の際は製造者／供給者または規制当局が指定する保護手袋、衣類、長靴および保護眼鏡等を着用すること。

粉塵/フューム/ガス/ミスト/スプレートの吸入を避けること。

換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

【対応】

飲み込んだ場合 : 意識がある場合は水で口の中を濯がせ、コップ 1～2 杯の水または牛乳を飲ませ、無理に吐かせずに速やかに医師の診断を受けること。

意識がない場合は口から何も与えずに速やかに診断を受けること。

眼に入った場合 : 直ちに清水で 15 分以上流水洗浄すること。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続け医師に連絡すること。

皮膚（又は髪）に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと／取除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。多量の水と石けんで洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当を受けること。

粉塵やミストを吸入した場合 : 呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させること。気分が悪い時は、直ちに医師の診断／手当を受けること。

曝露又は曝露の懸念が有る場合 : 医師の診断／手当を受けること。

【保管】

屋内の涼しく換気のよい場所で施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物および容器を廃棄する場合、都道府県知事の認可を受けた専門の産業廃棄物処理業者と契約し、産業物処理法（産業物の処理及び清掃に関する法律）及び関係法規、法令を厳守し、適正に処理すること。

【使用上の注意】

安全データシート（SDS）を参照して下さい。

3. 組成及び成分情報

| | |
|---------------|--------------------------------------|
| 単一製品・混合物の区別 | : 混合物 |
| 化学品および一般名 | : 樹脂ワックス用剥離剤 |
| 主な用途 | : 樹脂ワックス用剥離剤 |
| 官報公示整理番号（化審法） | : 既存 |
| 官報公示整理番号（安衛法） | : 有り |
| 成分 | : アルコール系溶剤、界面活性剤、アルカノールアミン |
| 危険有害性成分 | : 2-アミノエタノール 19.0%含有（労働安全衛生法・通知対象物質） |

4. 応急処置

| | |
|--------------|--|
| 吸入した場合 | : 被災者は空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の手当を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | : 付着物を拭き取り、多量の水及び石鹼で洗い流す。症状がでた場合は、必要に応じて医師の診断を受ける。 |
| 目に入った場合 | : 直ちに清水で 15 分以上注意深く流水洗浄後医師の診断を受ける。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続け医師の診断を受ける。 |
| 飲み込んだ場合 | : 水で口の中を洗浄し、コップ 1～2 杯の水又は牛乳を飲ませる。直ちに医師の診断を受ける。被災者の意識がない場合は、口から何も与えてはならない。 |
| 応急処置をする者の保護 | : 救助者は可能な限り保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。 |
| 医師に対する特別注意事項 | : 特別な解毒剤はない。症状に応じて対症的に治療する。 |
| 吸入した場合 | : 被災者は新鮮な空気のところに移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。 |

| | |
|-----------------------|---|
| 皮膚に付着した場合 | : 多量の水および石鹸で洗い流し、炎症などの症状が出た場合は医師の診断を受ける。 |
| 眼に入った場合 | : 直ちに清水で15分以上洗浄した後、医師の診断を受ける。 |
| 飲み込んだ場合 | : 被災者の意識がない場合は口から何も与えずに速やかに診断を受ける。 意識がある場合は水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲ませる。 直ちに医師の診断を受ける。 |
| 応急処置をする者の保護 | : 救助者は可能な限り保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。 |
| 医師に対する特別注意事項 | : 特別な解毒剤はない。症状に応じて対症的に治療する。 |
| 5. 火災時の処置 | |
| 消火剤 | : 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水、等 |
| 使ってはならない消火剤 | : 情報無し |
| 特有の危険有害性 | : 燃焼ガスには一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には煙の吸入を避ける。 燃焼ガスを吸引すると頭痛や呼吸障害を引き起こす可能性があり、吸引した場合は直ちに医師の診断を受ける。 |
| 特有の消火方法 | : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火作業は可能な限り風上から行う。 関係者以外は安全な場所に退避させる。 消火のための放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないように適切な処置を行う。 |
| 消火を行う者の保護 | : 消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。 燃焼ガスには、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には適切な呼吸用保護具を着用し、煙やガスの吸入を避ける。 |
| 6. 漏出時の処置 | |
| 人体に対する注意事項、保護具 | : 作業の際には必ず保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。必要に応じた換気を確保する。 |
| 環境に対する注意事項 | : 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 |
| 除去方法 | : 少量の場合、吸着剤（土、砂、ウエス等）で吸着させ取除いた後、残りをウエス、雑巾等で良く拭き取る。大量の水で洗い流す。多量の場合、人を安全な場所へ退避させ、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。 |
| 二次災害防止策 | : 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。火花が発生しない安全な用具を使用する。床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。漏出物の上をむやみに歩かない。 |
| 7. 取扱い及び保管上の注意 | |
| 取扱い | |
| 取扱い注意事項 | : 作業現場の換気を十分に行う。 保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用し、皮膚や粘膜に触れたり、眼に入らないよう注意する。取扱い後は手や顔等を良く洗い、うがいをする。 |
| 保管 | |
| 適切な保管条件 | : 直射日光が当たらない、涼しく換気の良い屋内で容器を密栓して保管する。 保管温度は0～30℃が望ましい。 |
| 安全な容器包装材料 | : 本製品の小分け容器には、ステンレス、ポリエチレン等の材質の容器を使用する。 鉄やアルミ製の容器は避ける。 |
| 8. 暴露防止及び保護処置 | |
| 設備対策 | : 蒸気、ヒューム又はミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 |
| 管理濃度 | : 設定されていない。 |
| 許容濃度 | |
| 日本産業衛生学会 | : 設定されていない。（2001年版） |
| ACGIH | : 設定されていない。（2001年版） |
| 保護具 | |
| 呼吸器の保護具 | : 通常の実験では特に必要ない。状況に応じて着用する。 |
| 手の保護具 | : 不浸透性（耐薬品、耐油）の保護手袋を着用する。 |

| | |
|------------|-----------------------------------|
| 目の保護具 | : 側板付き保護眼鏡（必要に応じてゴーグル型又は全面）を着用する。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | : 長袖作業衣、ゴム長靴等を着用する。 |
| 適切な衛生対策 | : 取扱い後は、手、顔等を良く洗い、うがいをする。 |

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

| | |
|--------|-------------|
| 形状 | : 透明液状（20℃） |
| 色 | : 無色又は微黄色 |
| 臭気 | : 微特異臭 |
| PH（原液） | : 11.5～12.5 |

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

| | |
|------------|--------------|
| 沸点 | : データ無し。 |
| 融点 | : -5℃以下 |
| 引火点 | : データ無し。 |
| 蒸発速度 | : データ無し。 |
| 燃焼性（固体、ガス） | : データ無し。 |
| 燃焼又は爆発特性 | : データ無し。 |
| 蒸気圧 | : データ無し。 |
| 蒸気密度 | : データ無し。 |
| 比重 | : 1.004（20℃） |
| 溶解性：水溶解性 | : 水と任意に溶解する。 |
| 溶媒溶解性 | : データ無し。 |
| 発火点 | : データ無し。 |
| 自然発火温度 | : データ無し。 |
| 分解温度 | : データ無し。 |
| その他のデータ | : データ無し。 |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|----------------------------------|
| 安定性 | : 通常の実験条件では安定。 |
| 反応性 | : 自己反応性無し。酸性物質とは中和反応により発熱する。 |
| 避けるべき条件 | : 40℃以上の温度で長時間放置すると徐々に赤みをおび進行する。 |
| 避けるべき材料 | : 鉄、アルミ等は腐食するので接触を避ける。 |
| 混触危険物質 | : 情報無し。 |
| 危険有害な分解生成物 | : 情報無し。 |
| その他 | : 情報無し。 |

11. 有害性情報

| | |
|-----------------|--|
| 急性毒性（経口） | （製品のデータ）: 情報無し。 （成分のデータ）: 参考情報；「2-アミノエタノール」として、経口（ラット）LD ₅₀ : 2100mg/kg（*1） |
| 急性毒性（経皮） | （製品のデータ）: 情報無し。 （成分のデータ）: 参考情報；「2-アミノエタノール」として、経皮（ラット）LD ₅₀ : 1500mg/kg（*1） |
| 急性毒性（吸入：ガス） | : 情報無し。 |
| 急性毒性（吸入：蒸気） | : 情報無し。 |
| 急性毒性（吸入：粉塵、ミスト） | : 情報無し。 |
| 皮膚腐食性/刺激性 | （製品のデータ）: 接触すると皮膚が赤発し、炎症を起こす。 （成分のデータ）: 参考情報；「2-アミノエタノール」として、動物による皮膚刺激性試験では「腐食性を示す」「刺激性、壊死」（*2） |
| 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 | （製品のデータ）: 情報無し。 （成分のデータ）: 参考情報；「2-アミノエタノール」として、眼刺激性試験（ウサギ）では「角膜混濁・虹彩・結膜浮腫等の非常に強い刺激性有り」（*2） |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | （製品のデータ）: 情報無し。 （成分のデータ）: 参考情報；「2-アミノエタノール」として、「極めて低い濃度の本物質を含むエアゾル吸入 |

誘発試験」に於いて、被検者が「咳、鼻水、鼻詰まり、喘息様呼吸」を示した。（*3）

生殖細胞変異原性 (製品のデータ) : 情報無し。
発ガン性 IARC : 認定されていない。
NTP : 認定されていない。
日本産業衛生学会 : 認定されていない。
生殖毒性 (製品のデータ) : 情報無し。
(成分のデータ) : 参考情報 : 「2-アミノエタノール」として、ラットの催奇形性試験で母毒性見られる用量で、胎児に腎盂拡張がみられた」(*3)

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)
(製品のデータ) : 情報無し。
(成分のデータ) : 情報無し。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)
(製品のデータ) : 情報無し。
(成分のデータ) : 情報無し。

吸引性呼吸器有害性 (製品のデータ) : 情報無し。
(成分のデータ) : 情報無し。

12. 環境影響情報

生体毒性 (製品のデータ) : 情報無し
(成分のデータ) : 参考情報 : 「2-アミノエタノール」として、「藻類 (セレナストラム)」の
ErC50=2.5mg/L/7hr (環境省生態影響試験 1996)

残留性/分解性 : 情報無し。

生体蓄積性 : 情報無し。

土壤中の移動性 : 情報無し。

その他 : 情報無し。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 内容物/容器を、国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄する。
焼却する場合、関連法規・法令を厳守する。
廃棄する場合、都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物の収集・運搬・処理業者と契約し、
廃棄物処理法 (廃棄物の処理及び清掃に関する法律) 及び関係法規・法令を厳守し、適正に
処分する。

汚染容器・包装 : 容器の内容物を除去した後に都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物の収集・運搬・処理業者と
契約し、廃棄物処理法 (廃棄物の処理及び清掃に関する法律) 及び関係法規・法令を厳守し、
適正に処分する。

14. 輸送上の注意

国内規則
陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法等に定められている輸送方法に従う。
海上輸送 : 船舶安全法に定められている輸送方法に従う。
航空輸送 : 航空法に定められている輸送方法に従う。

国際規則 : 航空輸送は IATA、海上輸送は IMDG の規則に従う。

国連分類番号・国連番号

IATA : UN Number : 3267
Proper Shipping Name : 腐食性物質
Class : 8
Packing Group :

IMDG : UN Number : 3267
Proper Shipping Name : 腐食性物質
Class : 8
Packing Group :
Additional Information :

輸送上特定の安全対策及び条件 : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

国内的用法令

| | |
|---------------------|--|
| 化学物質排出把握管理促進法 | : 第一種指定化学物質 (改正政令番号No. 20) 2-アミノエタノール (19.0wt%含有) |
| 化審法 (特定化学物質、監視化学物質) | : 該当しない。 |
| 労働安全衛生法 | : 57条の2 通知対象物質: 2-アミノエタノール (19.0wt%含有) |
| 毒劇物取締法 | : 該当しない。 |
| 消防法 | : 危険物第四類第三石油類 (水溶性) |
| 高压ガス保安法 | : 該当しない。 |
| 火薬類取締法 | : 該当しない。 |
| 船舶安全法 | : 危険物告示 別表第3 腐食性物質 |
| 航空法 | : 危険物告示 別表第11 腐食性物質 |
| その他の法令: 海洋汚染防止法 | : 有害液体物質 (D類) (エタノールアミン) (C類) (モノイソプロパノールアミン) |
| 物質登録情報 | : ENCS (Japan) : 登録済み TSCA (USA) : 一部未収載 EINECS (EU) : 一部未収載 AIGS (Australia) : 一部未収載 DSL (Canada) : 一部未収載 ECL (Korea) : 一部未収載 PICCS (Philippine) : 一部未収載 IECSC (China) : 一部未収載 |

16. その他の情報

問い合わせ先

| | |
|-------|---|
| 会社名 | : 株式会社 万立 |
| 住所 | : 大阪府柏原市片山町13-59 |
| 担当 | : 技術 |
| 電話番号 | : 072-977-0898 |
| FAX番号 | : 072-977-0898 |
| 緊急連絡先 | : |
| 引用文献 | : (*1) NIOSH Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (1983-1984) Cumulative Supplement (*2) ACGIH (2001) (*3) CERIハザードデータ集 (2002) |

お願い

本記載内容は本製品に関するものであり、危険・有害性化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う業者に提供されるものです。

また、情報の正確性、信頼性、あるいは完全性について保証するものではありません。

記載内容は現時点で入手出来る情報に基づいて作成してありますが、新しい知見により改訂されることがあります。

取扱う業者は、これを参考として自らの責任において、個々の取扱い等の実態に適切な処置を取ることが必要であることを理解した上で、使用されるようお願いいたします。